

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬春キュウリ	うどんこ病	少	11月上旬発生量：少(-) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 窒素肥料の多追肥を避ける。 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	褐斑病	並	11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 多湿条件で発生しやすい。そのため、換気や通風等に注意し、施設内が過湿にならないよう管理する。
	べと病	並	11月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し適切に処分する。 発病初期から薬剤防除する。
	オンシツコナジラミ	やや少	11月上旬発生量：やや少(-) 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の雑草を除去する。 薬剤散布は、葉裏までていねいに行う。 オンシツコナジラミはキュウリ黄化病を、タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病を媒介する。 <u>P4「これから注意を要する病害虫」も参照。</u>
	タバココナジラミ	やや多	11月上旬発生量：やや多(+) 気象予報：日照時間並	
冬キャベツ	菌核病	並	今春発生量：並〔発生なし〕 11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取ってほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 <u>令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。</u>
	黒腐病	多	11月上旬発生量：多(+) 気象予報：気温高(+) 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌は葉先の水孔や傷口から侵入しやすいので、風雨後は注意し、発生初期から薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	さび病	並	11月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。
	べと病	並	11月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量並	
	ネギアザミウマ	並	11月上旬発生量 被害度：並 寄生株率：やや少（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生が確認された場合は、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 葉の隙間等に潜んでいることもあるので、薬剤散布はていねいに行う。
	ネギハモグリバエ	多	11月上旬発生量：多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生が確認された場合は、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 収穫残さは発生源となるため、ほ場内に放置せず、適切に処分する。
冬レタス	菌核病	並	11月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。 トンネル被覆前に予防散布を徹底する。 トンネル被覆後は過湿にならないよう換気に努める。 菌核病については、令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。 灰色かび病については、令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。
	灰色かび病	並	11月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：気温高（+） 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イチゴ	うどんこ病	並	11月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	・ 発生初期から薬剤防除する。
	灰色かび病	並	11月上旬発生量： 並 [発生なし] 気象予報：日照時間並	・ 施設内の換気を良くし湿度を下げる。 ・ 発病葉、発病果は速やかに摘除し、適切に処分する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 ・ <u>令和3年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」</u> も参照。
	アブラムシ類	少	11月上旬発生量：少（－） 気象予報：日照時間並	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	少	11月上旬発生量：少（－） 気象予報：日照時間並	・ ハダニ類については、 <u>令和2年度病害虫発生予報第6号P4「これから注意を要する病害虫」</u> も参照。
カーネーション	アザミウマ類	少	10月下旬発生量：少（－） 10月黄色粘着トラップ誘殺数： 少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	やや少	10月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 早期発見に努め、発病初期から薬剤防除する。
野菜・花き共通	コナガ	並	10月下旬発生量 施設ストック：並 露地ストック： 並 [発生なし] 11月上旬発生量 冬キャベツ：やや多（＋） 10月フェロモントラップ誘殺数： ：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	・ 早期発見に努め、発生初期に薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

コナジラミ類・コナジラミ類伝染性ウイルス病（野菜・花き）

野菜類を加害する主なコナジラミ類として、タバココナジラミ（写真1）、オンシツコナジラミ（写真2）があげられる。両種の主な被害として、排泄物にすす病が発生して葉や果実が汚染されるほか、病原ウイルスを媒介することがあげられ重要な害虫である。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（写真3）やキュウリ退緑黄化病など、オンシツコナジラミはキュウリ黄化病などの病原ウイルスを媒介する。特に、トマト黄化葉巻病に罹病すると着果不良を引き起こし、収量への影響が大きい。

10月下旬に山武地域で実施した夏秋トマト病害虫調査によると、タバココナジラミの成虫寄生株率は20.00%（平年値4.16%）と平年を大きく上回り、トマト黄化葉巻病の発病株率も8.80%（平年値5.14%）と平年を上回った。

また、11月上旬に山武地域で実施した冬春キュウリ病害虫調査では、オンシツコナジラミの成虫寄生株率は平年値を下回ったものの、タバココナジラミの成虫寄生株率は15.20%（平年値4.74%）と平年を大きく上回った。

タバココナジラミ、オンシツコナジラミともに、施設内で越冬することができる。そのため、冬期でも特に施設栽培では注意が必要である。



写真1 タバココナジラミ
の成虫



写真2 オンシツコナジラミ
の成虫



写真3 黄化葉巻病に罹病した
トマト

<防除法>

- 1 コナジラミ類の施設への侵入を防止するため、天窗や側窓等の開口部に防虫網（0.4mm目以下）を張り、出入口を二重構造にする。施設への入退時は、コナジラミ類が衣服に付着していないか注意する。
- 2 育苗期または定植時に粒剤等を処理する。コナジラミ類の発生が確認されたら、早期に薬剤防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- 3 ほ場内のウイルス病発病株は、病原ウイルスの伝染源となるので見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せずに、ビニール袋等で密閉し、枯死させてから処分する。
- 4 ハウス内外の雑草及び野良生えは、コナジラミ類の増殖源となり、また病原ウイルスの伝染源となるので、除去する。
- 5 栽培終了後は、雑草も含めてハウス内のすべての植物を抜いた状態でハウスを密閉し、完全に枯死させてコナジラミ類を死滅させる。
- 6 トマト黄化葉巻病抵抗性品種は、病原ウイルスの増殖を完全には抑制できず、感染すると発病しなくても植物体中で病原ウイルスが増殖し、伝染源となりうる。このため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（イネ：10月、野菜：10月下旬～11月上旬、果樹・花き：10月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	萎縮病	再生株発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	縞葉枯病	再生株発病株率(%)	0.95	0.81	0.52	
	黄萎病	再生株発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	黄化萎縮病	再生株発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
夏秋トマト (山武)	灰色かび病	発病株率(%)	23.20	9.24	12.00	
	〃	発病果率(%)	0.27	0.06	0.11	
	〃	果実発病度	1.40	0.56	0.69	
	葉かび病	発病株率(%)	10.40	11.06	16.00	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	8.80	5.14	15.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	28.80	19.54	17.60	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	20.00	4.16	30.40	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	8.80	2.52	13.60	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	4.58	0.00	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率(%)	6.40	14.46	12.60	
	褐斑病	発病葉率(%)	0.00	0.03	0.00	
	べと病	発病葉率(%)	0.60	1.30	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.11	0.80	
	ワタヘリクロノメイガ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	2.40	5.69	7.20	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	15.20	4.74	25.60	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
冬キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病度	2.40	0.16	0.00	
	ヨトウガ	卵幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.80	3.52	0.80	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.08	0.02	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	タマナギンウワバ	10株当たり寄生幼虫数	0.00	0.00	0.00	
秋冬ネギ (長生、山武)	黒斑病	発病度	1.80	4.79	2.70	
	さび病	発病度	0.00	0.14	0.10	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.16	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	21.30	24.14	26.60	
	〃	成幼虫寄生株率(%)	26.00	44.12	25.20	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.80	0.60	1.20	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.40	0.24	1.60	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	0.40	0.72	5.60	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.08	0.40	
	ネギハモグリバエ	被害度	15.90	4.55	11.10	
冬レタス (安房、君津)	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	腐敗病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ネキリムシ類	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.41	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イチゴ (山武、海匝、安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	3.06	4.94	2.12	
	炭そ病	発病株率 (%)	0.24	0.14	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	1.65	6.14	2.59	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.47	1.67	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	3.76	14.33	8.00	
ナシ (県内全域)	黒星病 (秋型病斑)	発病葉率 (%)	1.97	1.92	2.42	
	うどんこ病	発病度	1.10	3.93	1.30	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.00	0.14	0.08	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	9.12	4.51	13.24	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.10	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	0.80	6.22	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.56	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.32	0.00	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.14	0.00	
	カメムシ類	叩き落し虫数	0.00	0.36	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率 (%)	3.75	3.12	0.75	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.60	0.00	
カーネーション (安房)	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.84	0.00	
	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.88	0.00	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	1.60	19.26	4.80	
	アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	0.53	10.38	4.37	
	オオタバコガ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.48	0.80	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	ヨトウムシ類	被害株率 (%)	0.80	3.68	0.80	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	11.02	0.00	
ストック (安房)	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.24	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	1.00	1.69	3.00	
	コナガ (施設)	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	0.00	6.39	4.00	
	コナガ (露地)	幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.23	0.00	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	2.97	0.00	

トラップ月間誘殺数（10月）*種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	2	5	19	頭/月
	クサギカメムシ	"	2	1	4	
	ツヤアオカメムシ	"	0	8	36	
	カメムシ類	"	4	14	59	
	アオクサカメムシ	"	0	0	0	
	ミナミアオカメムシ	"	0	0	0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.0	0.2	0.1	頭/日
	ヒメコガネ	"	0.0	0.0	0.0	
	コナガ	海匠、安房	0.5	0.8	0.6	
	ハスモンヨトウ	県内全域	17.5	32.9	23.6	
	シロイチモジヨトウ	"	2.4	1.1	3.2	
	オオタバコガ	"	4.5	3.5	3.3	
	タバコガ	"	1.1	0.7	0.4	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	0.8	0.5	1.2	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	0.8	0.5	1.2	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	1.5	1.0	2.4	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.8	3.5	5.2	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	3.3	4.4	7.6	
	チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	1.5	1.6	
ツヤアオカメムシ		"	0.4	0.7	2.0	
クサギカメムシ		"	0.8	0.4	0.8	
カメムシ類		"	2.6	2.6	4.7	
マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)		"	0.3	0.2	0.0	

○気象予報

11月10日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

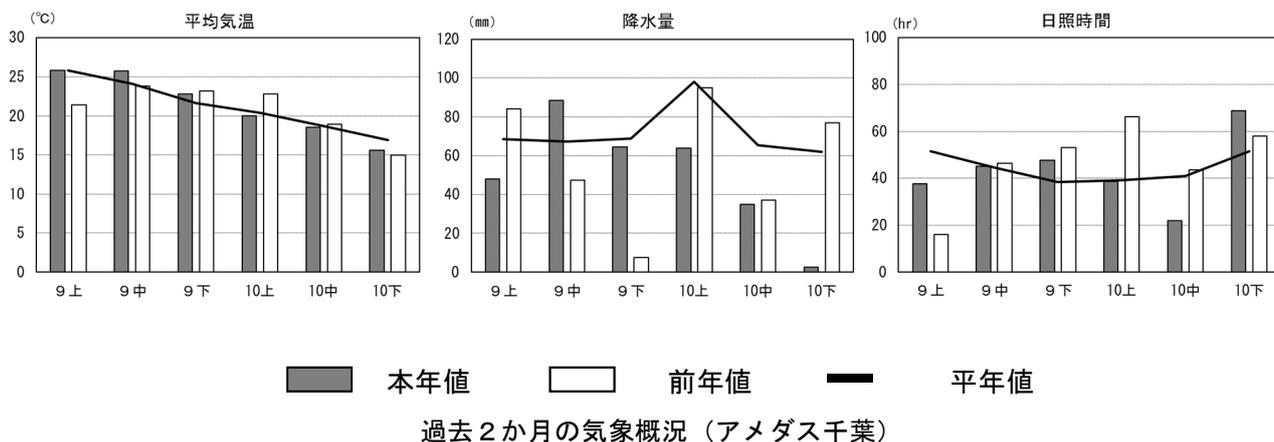
向こう1か月間の各気象要素の平年値

(11月12日～12月11日)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	11.5	12.6	11.8
降水量(mm)	87.5	131.8	134.3
日照時間(hr)	149.0	139.2	146.6

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は12月20日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

